

2014年3月期 第3四半期業績概要

2014年1月31日

アンリツ株式会社

代表取締役社長 橋本 裕一



東証第1部:6754
<http://www.anritsu.com>



注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

I. 2014年3月期 第3四半期 業績概要

I-1. 事業概要

I-2. 連結決算概要

I-3. 2014年3月期 通期業績予想

II. 中期経営計画 GLP2014の達成に向けて

I -1. 事業概要

計測事業

開発・製造・建設・保守用

- ▶ モバイル市場：LTE, 3G
- ▶ ネットワーク・インフラ市場：有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場：電子部品、無線設備



産業機械事業

- ▶ 食の安全・安心
- ▶ X線異物検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率)

2013年3月期 実績(連結)：947億円

計測 75%			産業機械 15%	その他 10%
モバイル 50%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 20%		

(計測事業 地域別売上比率)

日本 25%	アジア、パシフィック 30%	米州 30%	EMEA 15%
-----------	-------------------	-----------	-------------

I -2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

計測：米州・アジアの大幅伸張に対し、日本市場の需要低迷が継続

産業機械：堅調な日本市場に加え、北米での事業が拡大

セグメント	2014年3月期 第3四半期累計期間(4月-12月) の状況
計測	<ul style="list-style-type: none"> ・モバイル：LTE開発用、スマホ製造用需要が堅調 ・ネットワーク・インフラ：基地局整備の投資が堅調 ・エレクトロニクス：顧客の投資抑制傾向が継続
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本：モバイル関連投資が大幅に減速 ・アジア：製造用・開発用のモバイル関連が堅調 ・米州：スマホ開発・基地局整備の投資が牽引
産業機械	国内・海外ともに堅調

I -2. 連結決算概要 - 業績サマリー -

(単位:億円)

	前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	696	770	74	11%
売上高	677	711	34	5%
営業利益	115*	89	△ 26	△23%
税引前利益	115	93	△ 22	△19%
当期利益	93*	61	△ 32	△35%
当期包括利益	107*	96	△ 11	△11%
フリーキャッシュフロー	66	58	△ 8	△12%

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

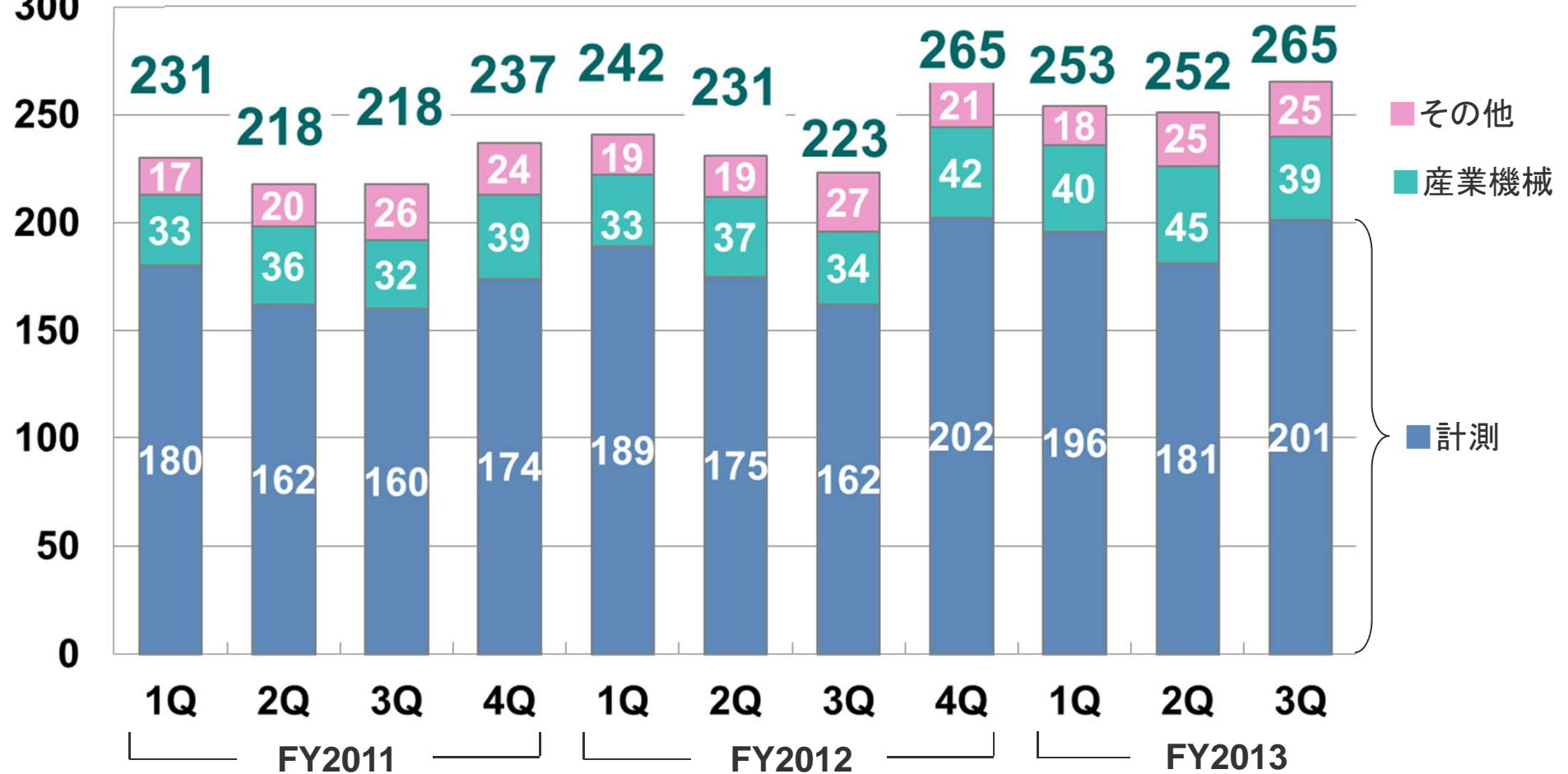
* 前第3四半期連結累計期間実績の数値はIAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正しております。
(修正前数値:営業利益116億円 当期利益94億円 当期包括利益108億円)

I -2. 連結決算概要 - 受注高推移 -



計測事業・産業機械事業ともに前年同四半期に対し増加

億円
300



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

I -2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

(単位: 億円)

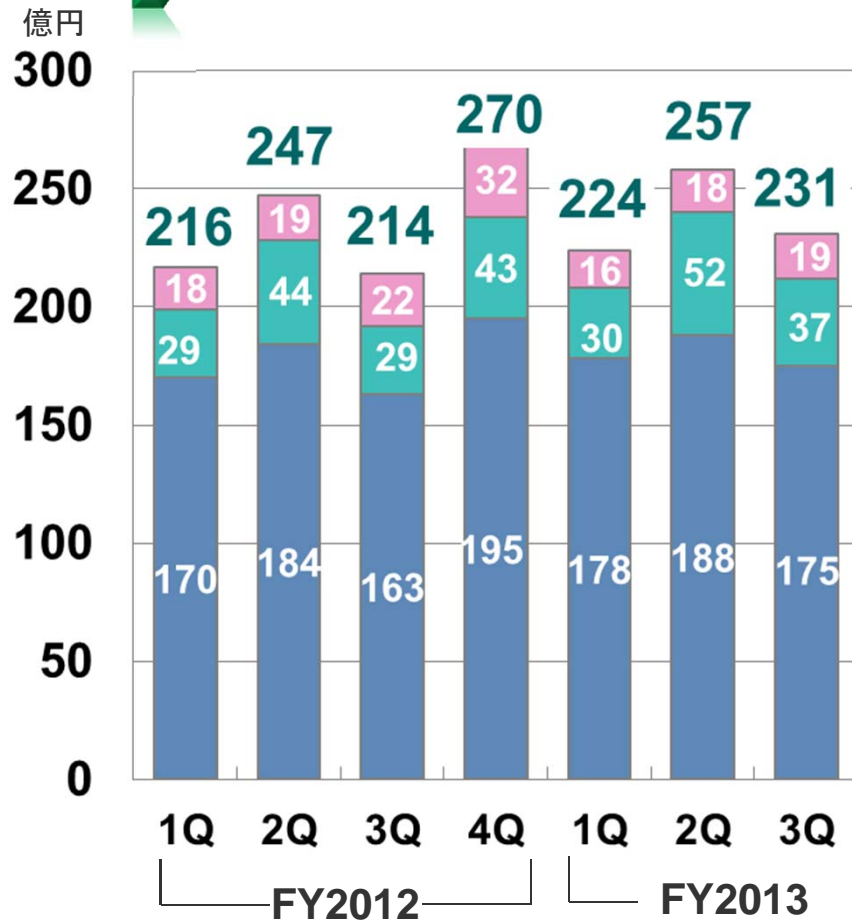
		前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測	売上高	517	540	23	4%
	営業利益	113*	85	△ 28	△25%
産業機械	売上高	101	119	18	18%
	営業利益	3	8	5	196%
その他 (含: 内部消去)	売上高	59	52	△ 7	△11%
	営業利益	△0	△4	△ 4	-
合計	売上高	677	711	34	5%
	営業利益	115*	89	△ 26	△23%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

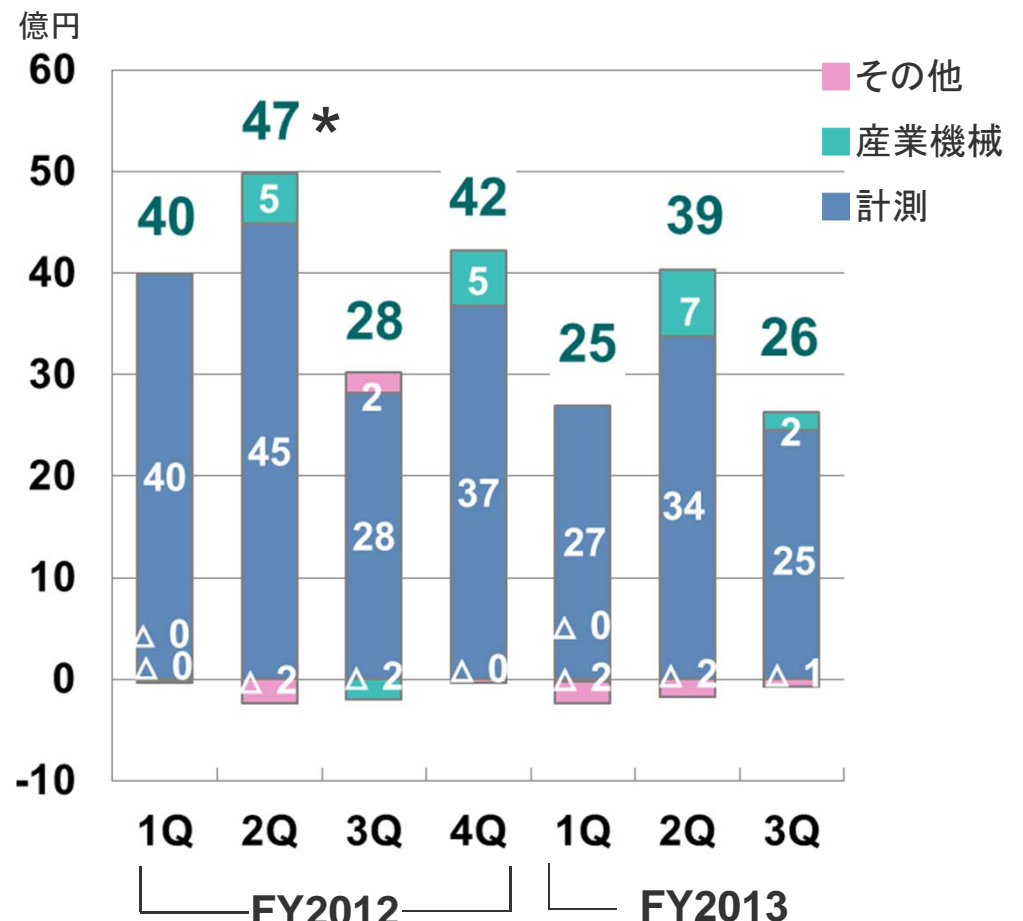
* 前第3四半期連結累計期間実績の数値はIAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正しております。
(修正前数値: 営業利益 計測 114億円 合計 116億円)

I -2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 通期計画に対する第3四半期までの進捗: 売上高70%、営業利益52%



連結売上高



連結営業利益

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

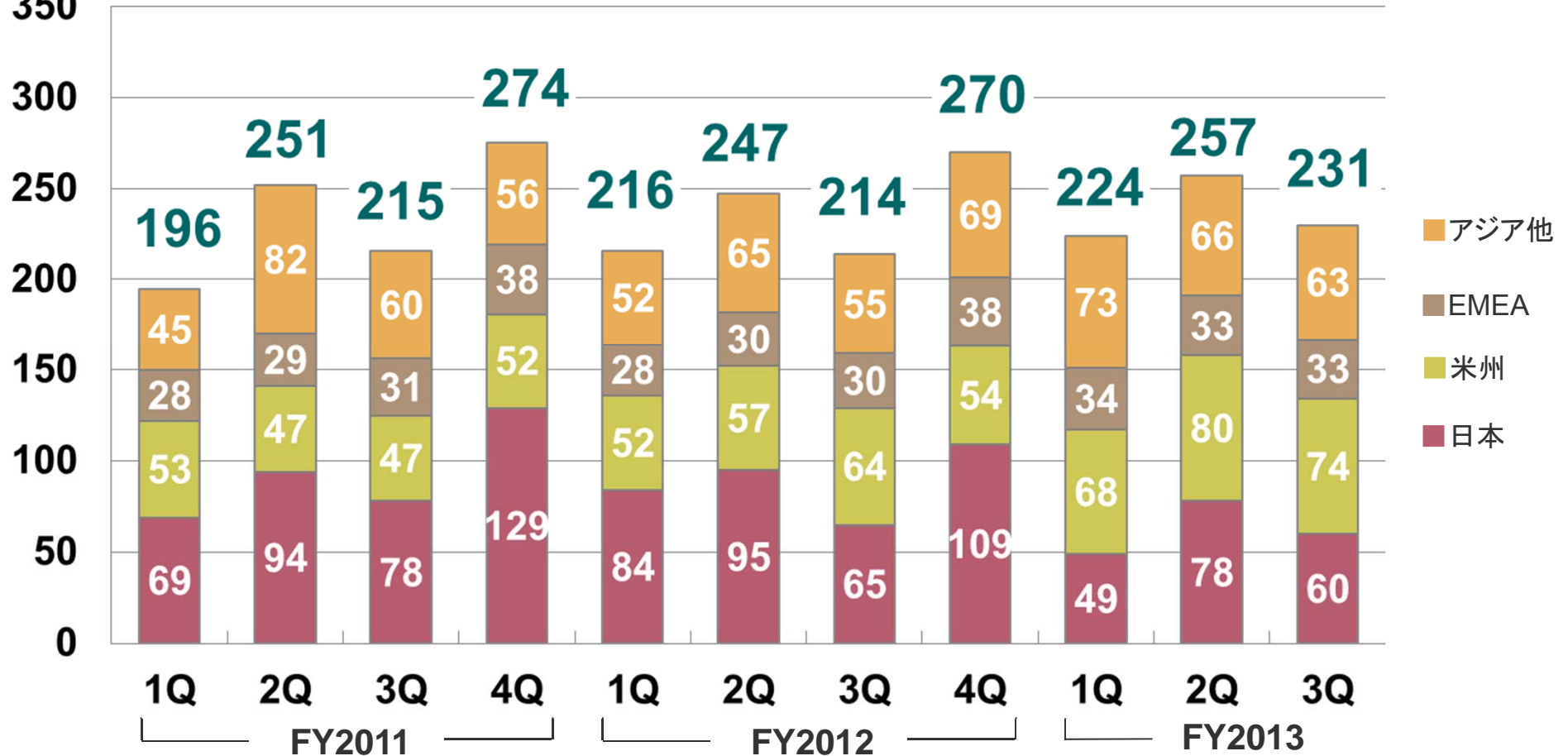
* IAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正しております。(修正前数値: 2Q連結営業利益48億円)

I -2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -



米州・アジアを中心に、海外の計測事業が牽引

億円



(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

I -2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

内訳

単位:億円 △減少

▶ 着実にキャッシュフローを創出

FY2013 3Q(累計)

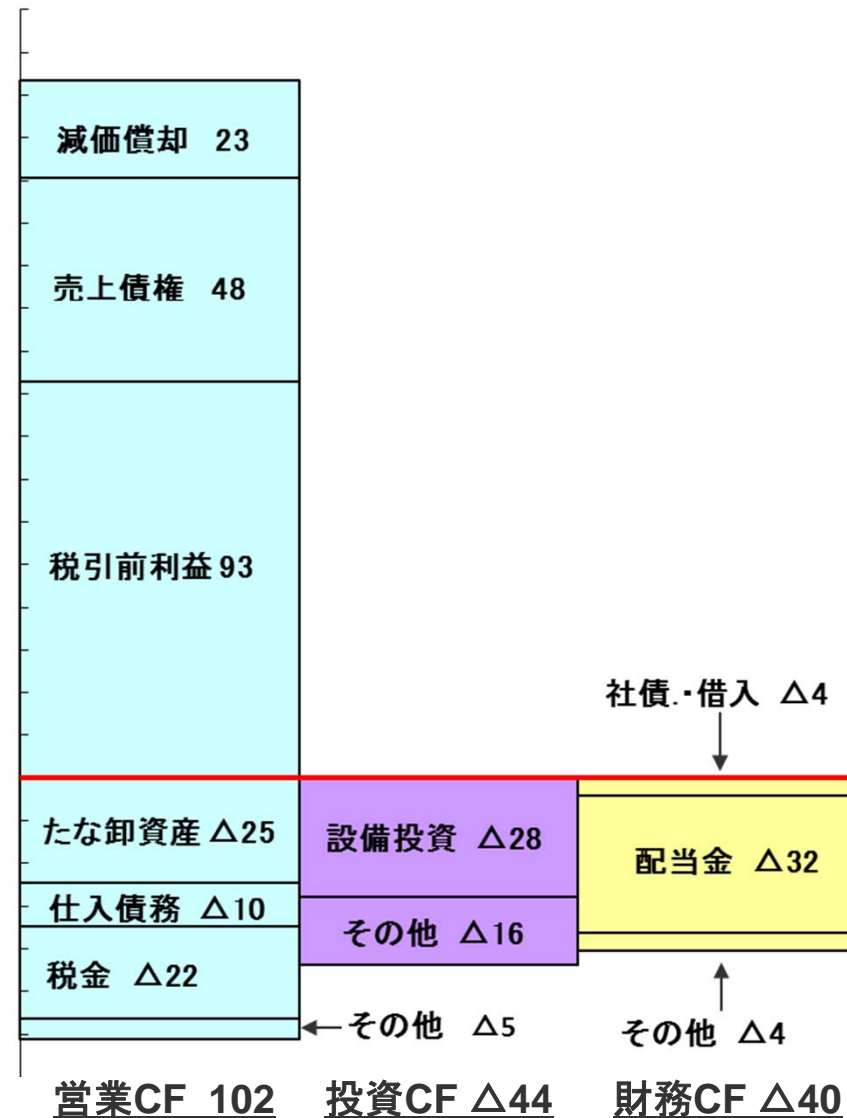
- ①営業CF: 102億円
- ②投資CF: △44億円
- ③財務CF: △40億円

フリーキャッシュフロー
(①+②): 58億円


現金同等物期末残高
414億円

有利子負債高
191億円

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入



I -3. 2014年3月期 通期業績予想(連結)


連結利益業績予想を下方修正
配当予定は変更なし(年間20円(うち期末10円))

(単位：億円)

		2013/3期	2014/3期			
		前期実績	通期予想		前期比	
			4/25発表	今回	増減額	増減率(%)
売上高		947	1,020	1,020	73	8%
営業利益		157*	170	143	△ 14	△ 9%
税引前利益		161*	165	143	△ 18	△ 11%
当期利益		139	115	95	△ 44	△ 32%
計測	売上高	712	770	770	58	8%
	営業利益	150	155	132	△ 18	△ 12%
産業機械	売上高	144	155	160	16	11%
	営業利益	8	10	11	3	35%
その他	売上高	90	95	90	△ 0	△ 0%
	営業利益	△ 1	5	0	1	-

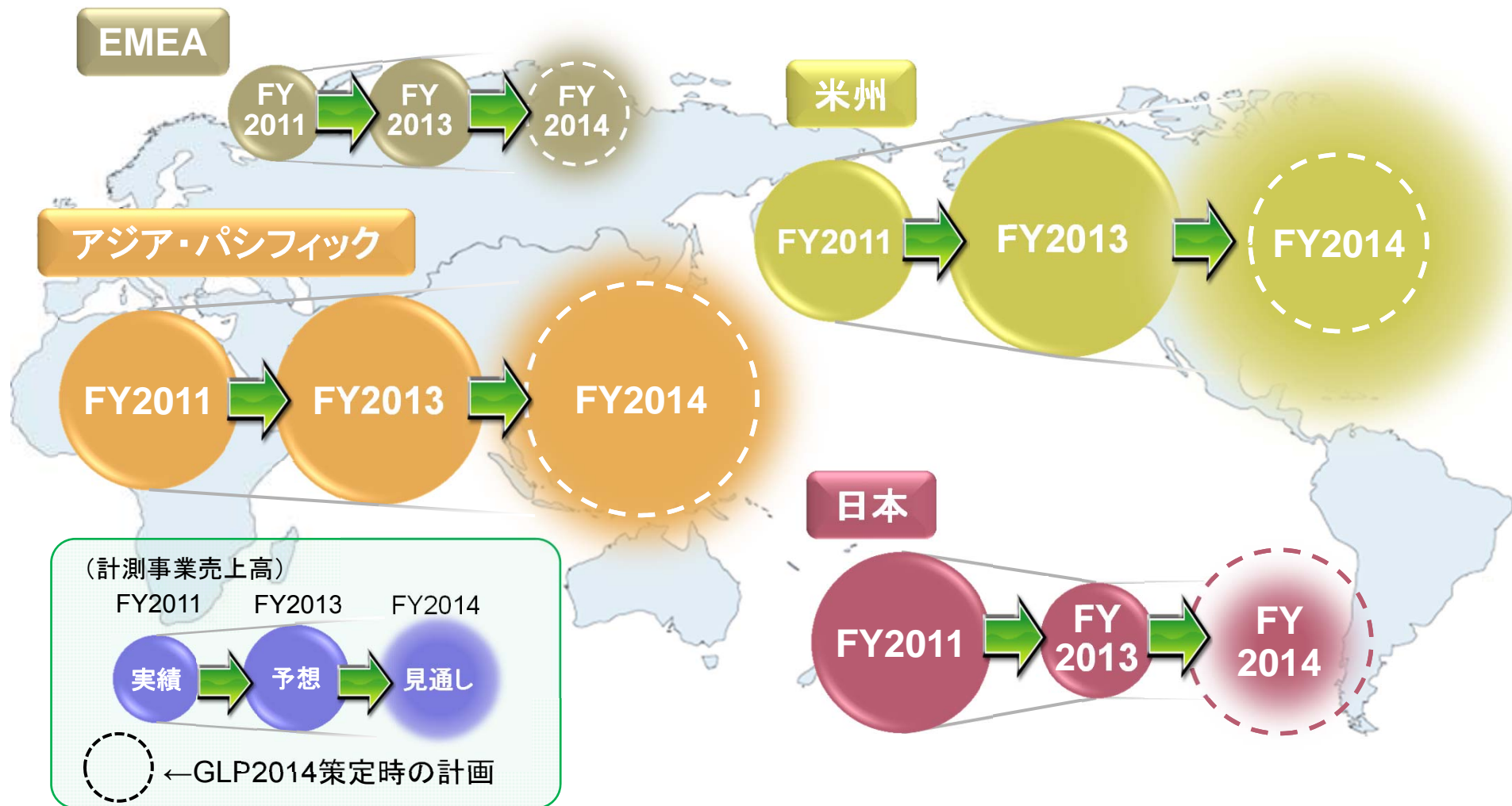
(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) 第4四半期 想定為替レート: 1米ドル100円、1ユーロ=135円

* 前期実績の数値はIAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正しております。(修正前数値: 営業利益158億円、税引前利益162億円)

Ⅱ. 中期経営計画 GLP2014の達成に向けて (1)

市場ミックスの中計からの変化



Ⅱ. 中期経営計画 GLP2014の達成に向けて (2)

モバイル市場の劇的な変化

- ①チップセットベンダーのリファレンスデザインによる端末製造市場の主導とスマホのコモディティ化
- ②OTT(Over The Top)プレイヤー*によるモバイルサービス市場の主導
- ③競争の激化と世界的再編によるプレイヤーの入れ替わり

*OTTプレイヤー：通信事業者を介さず既存のブロードバンドネットワーク上でコンテンツサービスを提供する企業



- ① 多様化する顧客ニーズに応えるソリューションの提供
- ② 市場を主導する顧客の獲得とシェア向上
- ③ グローバルな顧客対応力の強化と整備

The New Brand Statement

envision : ensure

As a leading supplier of mobile communications test solutions, Anritsu supports the industry through a visionary partnership, to innovate for tomorrow's society. With almost 120 years' experience within electronics and telecoms, Anritsu is a true forward looking innovator in the business. Together with customers we can envision and ensure future mobile infrastructure.

